

玉川活性化へ 地域資源活用

今治市玉川地域の活性化に取り組む今治東中等教育学校の3年生が5日、同市玉川町大野の市玉川文化交流館で地域資源を生かした活動の成果を発表した。同館で13日まで成果を展示し、8日にはマルシェも開催。同地域の鈍川産米などで作ったスイーツやご当地グルメ「玉川ダムカレー」を提供し、市民らにアピールする。

同校がNPO法人玉川サイコー（同市）と校の森谷端校長、大学実施するプロジェクト研究者、住民ら約30人の一環。約110人がを前に生徒が発表し昨年6月から農業▽福祉▽アート▽観光の4班に分かれ、少子高齢化などの課題に向き合ってきた。

5日は徳永繁樹市長や福祉班の地域食堂や福祉班の地域食堂を使ったパウンドケーキ

今治東中教校 成果発表

「鈍米」PRやマルシェ企画

「鈍米」のブランディングに力を入れた農業班。「わらしシ」も制作した



キやドーナツなどを地元業者と開発し、松山市内の大学祭などで販売。米粉のスイーツは8日のマルシェでも取り扱う予定で、藤沢蒼斗さん（15）は「ほどよい甘さでとてもおいしい」とPRした。

住民の手ほどきを受け、稲わらの「わらしシ」作りを体験したことも紹介した。地域食堂でダムカレーを提供した福祉班の佐藤祥子さん（15）は「続けてほしいとの声がうれしかった」と実感を込めた。「今後は地元の小売業者と連携し、生徒と買い物する企画も考えている」と見据えた。アート班は今治市在住の画家仙波さくらさんらの協力を受け、それぞれの視点で玉川の風景を捉えた油絵18点を会場に展示した。観



玉川の風景をそれぞれの視点で捉えた油絵

（西尾寛昭）